

8 メタデータ

本データ製品仕様に基づくデータ製品に関するメタデータは、次のとおり作成する。

8.1 メタデータの形式

メタデータの形式は、JMP2.0とする。

8.2 メタデータの記載項目

メタデータの記載項目を表 8-1 に示す。

表 8-1 メタデータに含めるべき項目

メタデータ項目	記述する内容	記述例
メタデータ>ファイル識別子	udx_[市区町村コード]_[整備年度]_[地物型]とする。 [市区町村コード]は、2桁の都道府県コードと3桁の市区町村コードからなる5桁のコードとする。 [整備年度]は作成した西暦年度(4桁)を記述する。 [市区町村コード]及び[整備年度]は、いずれも半角数字とする。 [地物型]は、地物型またはモジュールを示す接頭辞(3文字又は4文字のアルファベット)とする。 なお、_[地物型]は、メタデータを地物型又はモジュールごとに作成せず、まとめて作成した場合は省略する。	udx_27100_2021.fld
メタデータ>言語	メタデータの記述に使用する言語。日本語とする。	jpn (固定値)
メタデータ>文字集合	メタデータに使用する文字コード。UTF-8とする。	004 (固定値)
メタデータ>階層レベル	メタデータの作成対象。データ集合とする。	005 (固定値)
メタデータ>問い合わせ先	発注者の問合せ先を記述する。組織名、電話番号等を記述する。役割は「010(刊行者)」とする。	東京都都市整備局 03-5388-3227
メタデータ>日付	メタデータの作成日付をYYYY-MM-DDにより記述する。	2022-03-31
メタデータ>規格の名称	メタデータの仕様。	JMP (固定値)
メタデータ>規格の版	メタデータの版。	2.0 (固定値)
参照系情報	データ集合に適用される座標参照系の識別子。製品仕様書で指定された空間参照系の識別子を記述する。識別子は、JMP2.0を参照する。日本測地系 2011における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系の場合は、JGD2011, TP / (B, L), Hとなる。	JGD2011, TP / (B, L), H
識別情報>題名	3D都市モデル_[市区町村コード]_[整備年度] [市区町村コード]は、2桁の都道府県コードと3桁の市区町村コードからなる5桁のコードとする。 [整備年度]は作成した西暦年度(4桁)を記述する。	3D都市モデル _27100_2021
識別情報>日付及び日付型	データの作成日付をYYYY-MM-DDにより記述する。 日付型は以下より選択する。 001:作成日、002:刊行日、003:改訂日	2022-03-31, 003
識別情報>要約	3D都市モデルの概要を記載する。 データ集合に含まれる地物やそのLOD、作成に使用した原典資料、作成手法を示す。また、以下に示すデータの利用上の注意事項を入れること。 「ただし、原典資料の位置の正しさの違いや、作成された時期の違いにより、現状を正確に反映していない場合があることにご注意ください。」	
識別情報>目的	各都市において想定される3D都市モデルのユースケースを記述する。	災害リスクの三次元可視化
識別情報>状態	「完成」を示す固定値とする。	001 (固定値)
識別情報>問い合わせ先	発注者の問合せ先を記述する。組織名、電話番号等を記述する。役割は「010(刊行者)」とする。 作成者の問合せ情報を記述する。 役割名は「060(創作者)」とする。	東京都都市整備局 03-5388-3227

メタデータ項目	記述する内容	記述例
識別情報 > 記述のキーワード	<p>キーワードを、複数グループ化して記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「type=002」として、データ製品に含まれる都市の名称を入れる。 ➤ 「type=005」として、データ製品に含まれる地物型の名称を入れる。 ➤ 「type=005」として、データ製品に含まれる LOD のレベルを入れる。 ➤ 「type=005」として、データ製品に想定されるユースケースを入れる。 ➤ 「type=005」として、データ製品の作成に使用した原典資料の名称を入れる。 ➤ 「type=005」として、データ製品に含まれる都市の名称を入れる。 	
識別情報>利用制限	固定値とし、Licensed under CC BY 4.0 を記述する。	Licensed under CC BY 4.0
識別情報>空間表現型	ベクトルを意味する「001」を入力する。	001 (固定値)
識別情報>空間解像度	等価縮尺の分母にデータ集合に適用する地図情報レベルを入力する。複数のレベルが混在する場合は、それぞれ記述する。	2500
識別情報>言語	メタデータの記述に使用する言語。日本語とする。	jpn (固定値)
識別情報>文字集合	メタデータに使用する文字コード。UTF-8 とする。	004 (固定値)
識別情報>主題分類	構造物を意味する「017」を入力する。	017 (固定値)
識別情報> 範囲	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 作成範囲を包含する最小の矩形を、東西の経度、南北の緯度により記述する。 ➤ 地物や LOD により整備範囲が異なる場合は、作成範囲の違いを自由記述により明記する。 ➤ 地理記述には、都道府県及び市区町村名を記述する。 	LOD1 の作成範囲は●●市全域、LOD2 の作成範囲は、△△駅を中心とする半径約 300m 内。
配布情報>配布書式	CityGML2.0、i-UR 2.0 をそれぞれ書式情報として入れる。	
配布情報>オンライン	G 空間情報センターの URL を記述する。	
データ品質情報>データ品質	<p>製品仕様書に示す品質要求の各項目について品質評価結果を記述する。</p> <p>また、系譜には、主題属性の作成方法や図形と属性のアンマッチへの対処方法等、データ品質に記載できないが、データ製品の利用にあたり注意すべきデータの品質に係るデータの作成方法を記述する。</p>	

8.3 メタデータの作成単位

メタデータは、3D 都市モデル全体について、一つのメタデータを作成することを原則とする。

ただし、洪水浸水想定区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域は、それぞれを分けてメタデータを作成する。

8.4 メタデータのファイル名称

メタデータのファイル名称は、メタデータの記載項目である「ファイル識別子」に一致させる。

メタデータの拡張子は、.xml とする。